



八鹿青溪



貫徹 慎独 創造
養父市立八鹿青溪中学校 校報
(令和5年11月8日) 第20号

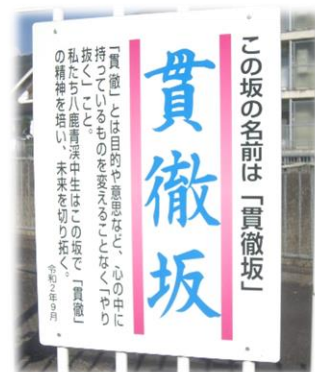


八鹿青溪中 HP

学校教育目標「ふるさとを愛し 自らを高め 未来への道を切り拓く 八鹿青溪っ子の育成」

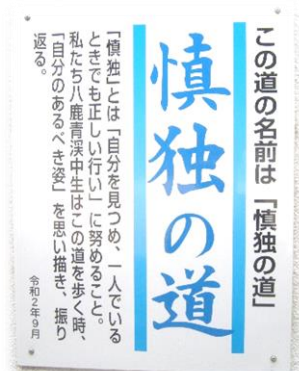
校訓「貫徹・慎独・創造」とともに

八鹿青溪中学校の校訓「貫徹・慎独・創造」は本校創立3年目の平成25年11月に定められました。そして、令和2年9月には、八鹿青溪中学校の生徒がよく利用する校地内各所を「貫徹坂」「慎独の道」「創造の庭」と命名し現在に至ります。八鹿青溪中学校の生徒は「貫徹・慎独・創造」の校訓を意識しながら日々学校生活を送っています。



① 貫徹坂 (小佐川沿いの坂道)

「貫徹」は、初心をけって忘れることなく、苦しいことがあっても最後までやり抜くということを意味します。「やり抜く」ためには、強い忍耐を持っていることが求められます。この言葉は旧八鹿中学校で大切にされていました。少年が但馬牛にまたがり、八鹿小学校裏山のカンス岩めがけて矢を放つ像が“貫徹の像”です。

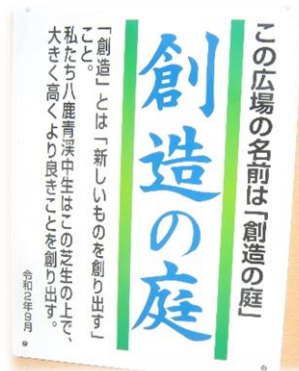


② 慎独の道 (“プロムナード”と呼んでいる通路)

登校時に今から始まる一日をイメージする、下校時にはその日の学校生活を振り返る、常に「慎独」という言葉をかみしめながらこの道を歩いてほしいという願いを込めて“慎独の道”と命名されたそうです。この言葉は青谿書院に近い旧青溪中学校で大切にされていました。旧青溪中学校は円山川沿いの穏やかな学校でした。

③ 創造の庭 (生徒玄関前芝生広場)

「創造」とは、「新しいものを初めて作り出すこと」という意味の言葉です。新しいものを作り出すためには創意工夫が必要です。そうすることによって、「作り出す」が「創り出す」に変わるのです。生徒玄関前芝生広場は垣尾教頭先生が常に美しく芝刈りをしてれています。この美しい“創造の庭”を歩きながら、高い理想を持つ、創造性に溢れた中学生が育つことを祈ります。



貫徹坂

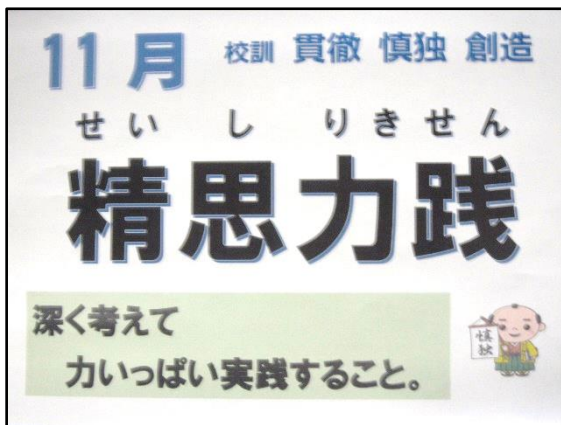


慎独の道



創造の庭

11月の「草庵先生の教え」



11月の「草庵先生の教え」は「精思力践(せいしりきせん)」です。世の中の物事や目の前で起きていることについて、まずはじっくりと考えをめぐらせ、その結果として導き出した自らの答えを精一杯実践してみることが大切であると説いた言葉です。例えば、日々の学習。どんな勉強法が自分に合っているかを深く考えてみて、その結果自らが選んだ方法を力の限り実践してみる。他人から与えられたものを実践するだけではなく、自分の思いを強く持つ。実に大切な考え方だと言えるでしょう。

演劇ワークショップ

10月30日(月)、江原河畔劇場から講師をお招きして、2年生を対象に演劇ワークショップを行いました。これは養父市教育委員会の事業であり、正解のない課題や未経験の課題にチームで取り組むことにより、コミュニケーション能力、集団での合意形成、課題解決能力を高めること、短いシーンの創作や「見る・見られる」という関係性の中で、やりきる力を培い、達成感を得ることにより自己肯定感を高めることを目的に実施しています。明るい表情で指導して下さる講師の皆さんに影響を受けて、いきいきと自己表現する生徒の姿が実に印象的でした。



野球部が養父市教育長へ県大会準優勝報告

10月30日(月)、八鹿青溪中学校・関宮学園野球部の生徒代表5名が米田養父市教育長へ県大会準優勝報告を行いました。先日の校報(号外)でもお伝えしましたように、第57回兵庫県中学校軟式野球新人大会にて八鹿青溪中・関宮学園合同チームは準優勝という成績を収めました。この日の報告では、県大会を通じて感じたことや次なる近畿大会に向けた決意などを生徒一人ひとりが堂々と述べ、教育長からは「きちんと自分の言葉で表現できて素晴らしい。」「近畿大会では是非優勝旗を。」とお褒めのお言葉や激励のお言葉を頂きました。



第2回小学6年生中学校登校

10月31日(火)、八鹿青溪校区小中一貫教育の一環として、今年度2回目の「小学6年生中学校登校」を実施しました。今回は、中学校教員による理科・音楽・保健体育の授業と宿南小学校の先生・栄養教諭(養父中所属)による家庭科の授業を受けました。また、前回同様、中学校での給食や清掃も経験し、5時間目は中学2年生と合唱交流会を行いました。第1回目に比べると小学生の緊張もほぐれてきたように感じました。

